

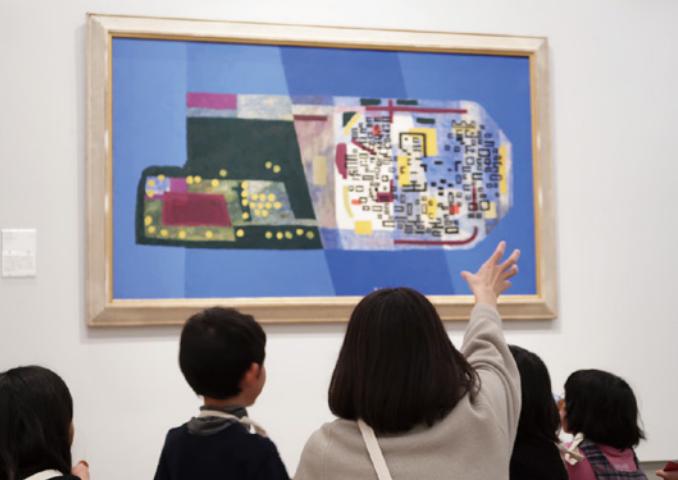
美術館にはさまざまな作品が並んでいます。古いもの、新しいもの、細かな描写、大胆な色づかい。子どもたちは、身体よりもはるかに大きな作品に驚き、小さな作品をのぞき込み、それぞれの気づきを得ていきます。作品に向かったとき、子どもたちが見せてくれる読みとりの力は、とても柔軟で広がりのあるものです。本物の作品を目にすることは、子どもに限らずすべての人に、驚きと新しい世界を知る手掛かりを与えてくれます。

美術館ではもちろん美術について学ぶことができます。そして自分たちが暮らす地域の歴史や文化、さらに自分たちとは違う地域に住む人たちが何を考え、何を生み出してきたのかを知ることもできます。同じ作品を見ても、ひとりひとりが違う感じ方をするのだと気がつくことは、他者への理解へとつながります。美術を学ぶことができると同時に、美術によって学ぶことができる世界が広がっているのです。

授業にぜひ美術館を取り入れてください。展示の内容や来館の方法、美術館にいられる時間、人数などの条件に応じて、具体的な計画作りのお手伝いもいたします。どうぞご相談ください。

■お問い合わせ

和歌山県立近代美術館 教育普及課
640-8137 和歌山市吹上1-4-14
edu_moma@hop.ocn.ne.jp
tel. 073-436-8691(直通)



てんじしつでのやくそく

1 小さめの声で、おはなししよう

気づいたことはみんなにつたえよう
でも大きな声だとみんながびっくりするね

2 手はうしろ、一歩下がる

おもしろいとおもったらさわりたくないけれど
よぞれたりこわれたりしたらたいへん！

3 ゆっくり、歩こう

いそいで動き回ったら
みんなにも作品にもあぶないね

4 えんぴつをつかおう

ボールペンやシャープペンシルは
作品をきずつけてしまうことがあるんだ

5 食べものは美術館の外で

作品にわるいことをする虫たちも
おいしいおかしがだいすきなんだ

6 かかりの人のおねがいをきいてね

あぶなそうに見えたら声をかけてくれるよ
みんなでやくそくをまもってたのしくみよう



美術館利用案内

学校と先生のための



和歌山県立近代美術館
THE MUSEUM OF MODERN ART, WAKAYAMA



美術館での鑑賞授業

子どもたちが美術館で落ち着いて学習できるのか心配…
美術館は敷居が高くて… 鑑賞授業の方法がわからなくて…

これらは先生方からよく耳にする言葉です。でも、大丈夫です。和歌山県立近代美術館では、学校の積極的な美術館利用を歓迎します。事前にご相談いただくことで、解決できることがたくさんあります。教室での授業への展開もご相談ください。

以下のモデルコースを参考に、人数や滞在時間など個々の事情を考慮しながら、充実した鑑賞授業が行えるようプログラムを作ることができます。

- どんな単位で？ 全校で／学年で／クラスで／班単位で／クラブで…
- どんなときに？ 授業として／遠足として／校外学習として／地域学習として…

▶はじめての美術館コース(45分)

展示鑑賞[20分] まとめ[15分]
└オリエンテーション[10分]

▶ピックアップコース(45分)

3作品の鑑賞[30分]

1点10分 1点10分 1点10分

└オリエンテーション[10分] └まとめ[5分]

▶ワークコース(90分)

課題提示[5分]

展示鑑賞[20分] ワークシート活動[30分] まとめ[25分]
└オリエンテーション[10分]



先生方との学びから



■ 和歌山美術館教育研究会

美術館と先生方が連携し、ともに学ぶ場として「和歌山美術館教育研究会」を開催しています。年に10回程度会合を開き、シリーズ展「なつやすみの美術館」を題材としたワークシートの作成や展示に関連した創作活動を検討しています。また先生同士が互いの授業内容を紹介し、検討しあう場にもなっています。教科は問いませんので、お気軽にご参加ください。

ご案内や内容は、メーリングリストを通してお伝えします。

【登録申請ページ <http://goo.gl/U5zEj>】

(登録には認証が必要ですので、ご連絡ください)

美術館は図工・美術だけのため??

美術館では美術作品を「鑑賞」します。「鑑賞」とは、作品を見て味わうという意味ですが、そのプロセスには、対象を観察し、意味付けし、解釈する段階があります。作品を見た子どもたちが発する言葉からは、すでに持っている知識を総動員して理解しようとする様子が見て取れます。ことばの力を育みながら、社会科や理科などの他の教科で学ぶ内容を応用した美術館での鑑賞は、複数の教科を関連づける総合的学習にも繋がっています。

また同じものを見ても、子どもたちは一人ひとり違う発見を得ています。となりにいる友人が自分とは違う理解をしていると気づくことは、互いの意見を尊重することにほかなりません。自主的な学習活動や、日頃の学級活動にも活用できますので、お気軽にご相談ください。県内外の事例紹介も行っています。



なつやすみの美術館へ



■ なつやすみの美術館

2011年に始まった「なつやすみの美術館」では、子どもから大人まで、幅広い来館者が美術と美術館を楽しめるよう、毎回さまざまなテーマを設定しています。和歌山美術館教育研究会で作成したワークシートは展示室で配布し、近隣の多くの学校ではこのワークシートが夏期休暇中の宿題として活用されています。

展示室の一角には展覧会内容に関連した創作活動ができるスペースを設けています。鑑賞活動をアウトプットする仕組みを通して、様々なコミュニケーションが生まれています。